

ねずみのよめ入り

(日本の昔話)

昔、ある屋敷やしきのうらに、ねずみの親子がすんでいました。むすめのチュウ子は、
 氣立てのよいねずみでした。

「世界で一番強いむこをさがしてやろう。」

お父さんとお母さんはそう考えて、まずお日様のところへ出かけました。

「お日様、あなたは世界で一番強い方です。どうか、むすめのむこになってください。」

すると、お日様は①首をふりました。

「わたしより強いのは雲さんだよ。雲が出ると、わたしの光はかくされてしまうからね。」

そこで雲のところへ行くと、雲は言いました。

「わたしより強いのは風さんさ。風にふかれると、わたしはどこかへ飛ばされてしまう。」

風のところへ行くと、風は答えました。

「わたしより強いのは、かべさんだ。どんなにふいても、かべだけはびくともしない。」

最後にかべをたずねると、かべはこまった顔で言いました。

「いやいや、わたしより強いのはねずみさんですよ。ねずみにかじられたら、わたしにはあながあいてしまいます。」

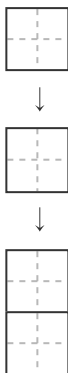
② 親子は顔を見合わせました。

「なんだ、一番強いのは、わたしたちねずみだったのか。」

こうしてチュウ子は、近くにすむ働き者のねずみのおよめさんになりました。

親子がたずねた順に、
まずに合う言葉を書きましょう。

お
日
様



——とありますが、
① お日様がむこになるのをこわったのはなぜですか。

3 風がかべを強いと考えたわけを、本文から十二字で書きぬきましょう。

②のときの親子の気持ちに合うものに○をつけましょう。

ア
かべにことわられて、はらを立てている。

一番強いのが自分たちだと知って、おどろいている。

ウ　さがすのにつかれて、あきらめている。

5 この話から分かることに合うものに○をつけましょう。

ア 体の大きなものほど、強い。

イ
どんなものにも、それぞれ強いところがある。

ウ 遠くにいるものほど、えらい。